

（BOX 1）輸出環境のモニタリング指標に基づく足もとの評価

海外経済の減速を背景に、足もとでは、わが国の輸出は弱めの動きとなっている。本支店・事務所を通じた企業ヒアリングでも、輸出・生産面における海外経済の減速の影響を指摘する先が増えている³⁷。

こうした輸出環境の変化を確認するため、前回の「展望レポート」で輸出環境を包括的にモニタリングするために提示した指標「SCOPE」（Surveillance Indices for Critical Overseas Perils to Exports）を更新した（図表 B1-1）³⁸。これをみると、輸出環境が悪化しているとのシグナルを発しているのは、昨年 12 月時点では 18 の指標のうち 3 つであったが、本年 3 月には、「グローバル製造業 PMI：新規輸出受注指数」、「OECD 製造業景況感指数」、「世界自動車販売台数」、「Nikkei 日本製造業 PMI：新規輸出受注指数」、「機械受注外需：電子・通信機械」、「中国金属加工機械生産台数」と、6 つに増加している（図表 B1-2）。

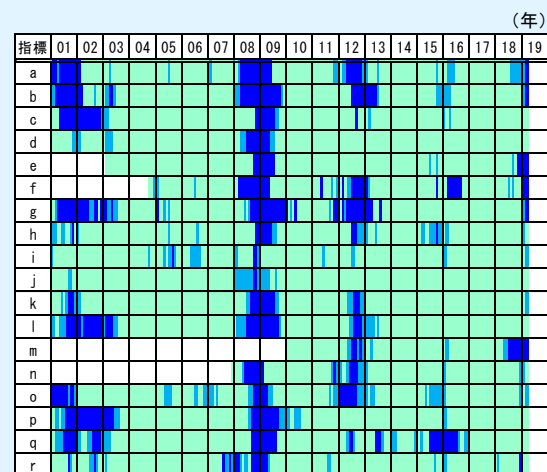
足もとシグナルを発している指標の数は、過去、輸出が大きく減少した①～④の局面と比べれば少ないが、中国をはじめとする新興国経済が減速した 2015～2016 年よりも多く、今回の輸出環境の悪化が、その当時を上回る拡がりを示していることがわかる（図表 B1-3）。ただし、図表 B1-2 で指標の内訳をみると、過去のグローバル経済変動に伴う輸出の大きな落ち込み局面と異なり、米国や金融などについてはシグナルが点灯しておらず、今次局面における輸出環境の悪化が、アジアと製

図表B1-1：モニタリング指標

指標		
世界		
企業	a	グローバル製造業PMI：新規輸出受注指数
	b	OECD製造業景況感指数
	c	WSTS世界半導体出荷額
家計	d	OECD消費者景況感指数
	e	世界自動車販売台数
日本		
企業	f	Nikkei日本製造業PMI：新規輸出受注指数
	g	機械受注外需：電子・通信機械
米国		
企業	h	ISM製造業景況感指数：新規輸出受注指数
	i	フィラデルフィア連銀製造業景況感指数：先行き出荷
家計	j	ミシガン大学消費者態度指数：現状
欧州		
企業	k	ユーロ圏製造業景況感指数：生産期待
	l	ユーロ圏サービス業景況感指数：需要期待
アジア		
企業	m	中国金属加工機械生産台数
	n	中国製造業PMI
総合	o	台湾景気総合判断指数
金融	p	MSCI先進国株価指数
	q	MSCI新興国株価指数
	r	VIX指数

（注）グローバル製造業PMIは、J.P.Morganグローバル製造業PMI。

図表B1-2：SCOPE



（出所）Haver, Bloomberg、内閣府、WSTS、IHS Markit© and database right IHS Markit Ltd 2019. All rights reserved.（注）1. 実質輸出が先行き大幅に減少する可能性を、指標ごとにそれぞれの閾値との対比で可視化したもの。日本銀行スタッフ算出。
2. 図中の色は指標ごとに設定した閾値との対比で以下の通り表示、青色：閾値を超過、水色：閾値～閾値の1/2、緑色：閾値の1/2未満、白色：データなし。

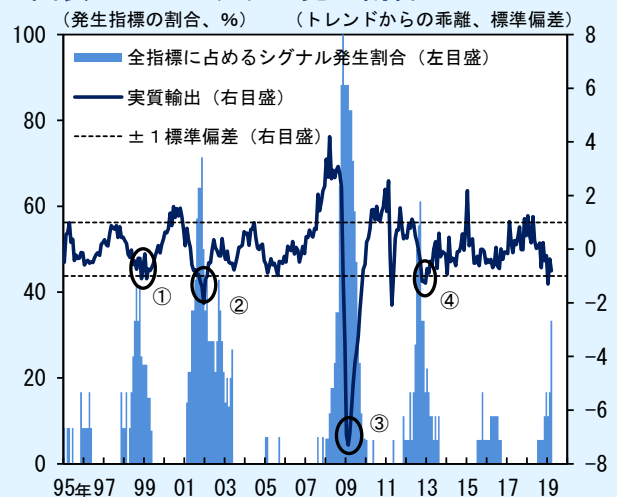
³⁷ こうした企業ヒアリングの一端は、さくらレポート（2019年4月）でとりまとめられている。

³⁸ SCOPEの詳細については、2019年1月展望レポートのBOX 1を参照。

造業等の一部セクターに限定されていることが示唆される。

なお、今次局面における実質輸出のトレンドからの乖離は、1月に1標準偏差のバンドを超えた落ち込みを示したものの、2月、3月は再びバンド内に戻っており、①～④の局面のように、一定の期間にわたってバンドを超える落ち込みを示すには至っていない。

図表B1-3：シグナル発生割合



(出所) 日本銀行、財務省

(注) ①～④は、実質輸出が4か月中2か月以上、トレンドから1標準偏差を超えて下回った時期を表す。